

## 別記様式第6

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	横山 竜一郎
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) John Donne: The Making of a Poet, c. 1590–1676			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	吉中 孝志	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	倉田 賢一	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	西原 貴之	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	助教	松本 舞	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	名誉教授	岡村 眞紀子 (京都府立大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、初期近代イングランドの詩人ジョン・ダンが、自らを詩人としてどのように成型しようとしたのか（第一部、第一章～第三章）、ダンの詩人としての功績は同時代の別の詩人にどのような影響を与えたのか（第二部、第四章～第五章）、そしてダンが死後どのような詩人として表象されるようになったのか（第三部、第六章～第七章）について、彼が詩人としての活動を開始した 1590 年頃から死後の彼の詩の受容に最も大きな影響を与えたアイザック・ウォルトンが、著作『釣魚大全』の最終版を出版した 1676 年までの時期に特に注意を向けて論じたものである。</p> <p>第一章では、ダンが文学的自己成型をなす過程で、1590 年代のイングランドで流行した書簡詩というジャンルの確立に意義深い貢献をしたことが示される。</p> <p>第二章では、トマス・ウッドワードへの書簡詩ならびにトマスからダンへの書簡詩が、ソネットとオウイディウス風書簡詩という文学ジャンルのなかに位置づけられている。</p> <p>第三章では、ローランド・ウッドワードへの書簡詩が、親密な手紙とホラティウス風書簡詩というジャンルのなかに位置づけられている。</p> <p>第四章では、ダンとエドワード・ハーバートの関係が伝記的に探られるとともに、1590 年代のイングランドで諷刺詩が真理を探求するための道具として機能していたことが確認され、二人の諷刺詩が比較考察されている。</p> <p>第五章では、ダンの書簡詩、ハーバートの散文作品と前者の死に寄せた挽歌が精読され、二人が真理について議論し、対話していた痕跡として論じられている。</p> <p>第六章では、ダンの詩の意味が社会的および物質的な文脈によって規定されるようになった複数の事例が詳述されている。また、ウォルトンが伝記においては好意的に扱っているダンに対して『釣魚大全』においては批判的な態度を向けていることを問題提起している。</p> <p>第七章では、ウォルトンが理想的な釣り人と称えたヘンリー・ウォットンが、ダン受容史研究の補助線として考察され、彼の釣魚詩と『釣魚大全』との比較によって当時の釣り人の価値が明らかにされている。</p> <p>第八章では、第六章でなされた問題提起に答えを与えるために、ダンの「餌」が精読され、ウォルトン</p>			

は、ダンの詩を聖人伝的な受容との整合性を意図して解釈しており、釣りを嘲笑する「餌」を回心前のダンの心性を表す恋愛詩として捉えていた、と論じられている。

本論文は、次の4点で高く評価できる。

1. ジョン・ダンとウッドワード兄弟との関係を明らかにすることで、二つの書簡詩群を今までの研究史にはなかった新たな時系列で論じ、ダンの詩人としての自己形成の記録を見出した。
2. 詩人ジョージ・ハーバートに比して、これまで等閑視されていた兄、エドワード・ハーバートの作品とダンの書簡詩、諷刺詩との接点を見出し、真理の追求という主題を考察した。
3. アイザック・ウォルトンが、ダンの回心のナラティブを『釣魚大全』の中で再利用していることを詳細に論証した。
4. マニュスクリプトを含む、英国初期近代の難解な韻文を正確に読み解き、自らの論点を卓越した英語で表現した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和6年 2月 1日

備考 要旨は、A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)